

アウトドアズ・イン

自分も周囲も加齢が進んでいる。10年前くらいだったか、よくご参加下さっていたAさんが突然、「古稀になったから、もう山はやめる」と、おっしゃる。「まだまだ登れますよ、もっと山を楽しみましょうよ」というと、「そうだね」といってご参加が続いていた。75歳になったAさん、「もう後期高齢者になったから、山はやめる」と、おっしゃる。「いま止めちゃあもったいないですよ、もっと山を楽しみ続けましょうよ」というと、「そうだね」といって、年に何回か楽しい時間を一緒に過ごしてきた。

Aさん、来年には80歳になる。80歳を過ぎた方がトシを理由に山をやめるとおっしゃったら、「まだまだ登れますよ」とは言い難い。山登りを止めるのは仕方ないとして、家に引きこもってしまったら大なるマイナスだ。自然の中にいることこそ、人の幸せだと確信するからだ。それで発明した言葉が「80歳からはスキー」である。

スキー板をはいてリフトに乗れば、爽やかな風がほほをなでてくれる。昨今、板も靴も良くなっているからそうそう転びはしない。それでも、転んだら骨折するのではないかと心配で、スキーを始められない方は少なくない。それよりもなによりも、春が来て、雪が消えたらスキーもへったくれもない。

ウーム…、そこで閃いたのが、「アウトドアズ・イン」。強引な和製英語だが、ぼくの想いは充分こもっている。加齢に従って、足があがらなくなる。転倒までには至らないが、上げたつもりの足が上がってなくて、つま先が木の根や岩角にひっかかってつんのめる。山はもう止め、となる。山を止めて、家に引きこもってしまったら百害あって一利なしだ。前述の通り、自然の中にいることこそ人の幸せだ。「アウトドアズ・イン」である。

先日、救心製薬特別協賛で「岩崎元郎の健康登山講座」が、函館の隣、北斗市で開催された。「新日本百名山・恵山を登る会」の主催であった。翌日、恵山に登る予定が雨のため中止。帰りの飛行機が夕方だったので、恵山の麓、ホテル恵風まで遊びにいった。大きくてきれいな温泉があり、海岸線にもお湯が沸いていて、湯舟が作られている。目を上げれば山、目を下げれば海、山に登らなくても退屈することはない。

北八ヶ岳、ロープウェイを利用して山頂駅まで上がり、坪庭あたりを散策するのもいい。美ヶ原もいい。標高2000mの高原に、歩くことなく運び上げて貰えるなんて、こんなに有り難いことはない。坪庭も美ヶ原も冬でもOKだ。七時雨山もいい。山に登らなくても、山荘のテラスに座って本でも読んだら文句なしの文化人になれる。

お元気な方からは、「バカ言ってんじゃないよ」なんて言われそうだが、ぼく自身もさることながら、80歳を越えてまだまだ山に登りたいという方々の安心安全を考えると、「アウトドアズ・イン」、声を大にしてアピールしたいと思っている。